

## この号の内容

### 1 ページ

全国自立援助ホーム協議会ホーム長研修・総会報告

### 2・3 ページ

平成27年度女性スタッフ研修報告

### 4 ページ

ホーム長紹介

### 5 ページ

第22回全国自立援助ホーム協議会 全国大会開催にあたり

### 6 ページ

ご案内  
編集後記

## 全国自立援助ホーム協議会 ホーム長研修会・総会

月日：平成27年4月27日(月)～28日(火)

会場：アルカディア市ヶ谷 私学会館

次第：

### 1 日目

- ・開会挨拶 全国自立援助ホーム協議会 会長 星 俊彦
- ・行政説明 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課 家庭福祉課長 大隅 俊弥 氏

- ・研 修 「自立援助ホームの運営指針についての説明と意見交換」  
～ホーム数の増加とニーズの多様化に伴う自立援助ホームの運営のあり方・・・共有すべき支援内容とは？～

運営指針の説明 ふくろうの家 高橋 一正 氏

- ・新規ホーム紹介
- ・懇親会

### 2 日目

- ・全国自立援助ホーム協議会 総会



今回は、運営指針ができて初めての研修でその内容についての説明や質疑応答があった。その内容は、自立援助ホームを増やしてく上で共有しなければならないことが凝縮するようになった。と同時に仕事を始めたときにあった初心を思い出したり、日頃おろそかにしているところを指摘されているようでもあり、読んでいくと背筋が伸びる。

毎年のことだが、新規ではじめられるホームの方々にお会いできるのは非常に嬉しい。ホームの思いを聞かせていただくことで、こちらもパワーを分けていただける。それと共に残念ながら休止されてしまうホームもあり、とても寂しい。立ち上げたホームができる限り継続してやっていけるよう皆でいろいろなことを考えなければならないと思う。

また、翌日の総会では作成に携わったパンフレットを全国の皆様に手渡すことができ、感慨深かった。当日は自分の誕生日で皆様に「おめでとう」と祝福もしていただき、本当に印象に残る誕生日になった。

平成 27 年 7 月 27 日～28 日 福岡県福岡市において、全国自立援助ホーム協議会女性スタッフ研修会が実施されました。全国から 41 名の女性スタッフが参加し、研修、交流と内容の濃い 2 日間となりました。

平成 27 年度  
女性スタッフ研修  
報告

**【研修日程】 7 月 27 日（月）～ 28 日（火）**

**1 日目**

- ・開会挨拶：全国自立援助ホーム協議会 研修委員長 田村 崇氏
- ・自己紹介
- ・講義：テーマ「児童自立支援施設・自立援助ホームの双方が求めるもの」  
～女性スタッフとして、どんな援助が必要なのか～  
講師）児童自立支援施設 福岡学園 自立支援専門監 河尻 恵氏  
自立援助ホーム かんらん舎 大谷 幸代氏

- ・質疑応答
- ・懇親会

**2 日目**

- ・グループ討論
- ・かんらん舎 見学

**【平成 27 年度 女性スタッフ研修会に参加して】**

かんらん舎（福岡市） 大谷 幸代

この度、全国自立援助ホーム協議会女性スタッフ研修会を福岡市で開催しました。この日は台風上陸の予報も重なっており、無事に開催できるかどうか心配していましたが、全国より 40 名以上の皆様にご参加いただきました。

講師には、現在、児童自立支援施設 福岡県立福岡学園の児童自立支援専門監である河尻 恵先生より、児童自立支援施設についてお話していただきました。実際に寮運営をされたご経験から、これまで出会った子ども達を通して、私達が利用者とのように関わっていくことが大切なのかをお話していただきました。さらに、利用者のためにスタッフが長く続けられることや、スタッフを確保するための仕組みや体制整備の課題についてご指摘いただきました。

私は昨年、女性スタッフ研修に参加させていただいて、全国の女性スタッフ皆様の底知れぬパワーと女性ならではの全てを包み込むような母性的な関わりが、実際のホーム運営を下支えしていることを実感しました。そして、今年皆様とお会いしてさらに感じたことは、自分達だけで背負わないで済む体制が整っているホームの皆様は女性スタッフとして本領を發揮されているということです。日々、利用者と喜怒哀楽を共にしながら、愚痴はこぼしても、愛おしいと思っている皆様の想いが端々から伝わってきました。

河尻先生の講演の中にも、直接現場で利用者に関わるスタッフの周りに相談できる仲間や連携機関（何かあった時のお守りのようなもの）がたくさんあれば、自分が担う役割を理解して関わるができる、というお話がありました。自分一人で担わなくてはいけないと思うと、確かに行き詰まりを感じてしまいます。

でも、お守りの一つとして、研修中留守を預かってくれるホームスタッフの皆様がいるおかげで、大切な女性スタッフは、日頃のホーム運営を労いながら研修会での横の繋がりを紡ぐことができました。

最後に、福岡研修では、研修会場や懇親会、かんらん舎見学等、行き届かない点多々ありましたが、ご参加の皆様の優しさでカバーしていただいて何とか無事に終えることができました。研修委員の皆様、ご参加いただいたスタッフの皆様、そして私達を支えてくださっている皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。

## 子供の家（神戸市） 有吉 みはる

平成 27 年度  
女性スタッフ研修  
報告

7月27日から28日にかけての一泊二日、今年は福岡での研修会に参加させて頂きました。毎年の「女性スタッフ研修」は、その土地毎の特色やおもてなしに触れることが出来、何より女性スタッフ同士の本音での話や、飾らない語らいができる事で、まだ開所4年目の新参者の私共にとっても、大変楽しい研修です。

さて、今年の福岡での会においては、二日目に設定されたグループ討論は、AからFの6つのグループに分けられており、各テーブルでテーマを決めて話し合う流れでした。思いがけず進行役を任せられ「何をテーマにしましょうか」との、まずの問いかけに「フレンズハイム」の横山さんから「精神的に困難を抱えている入居児の対応について協議したい」との意見が出され、私達グループでは、その観点からの討論がなされました。

昼夜逆転の引きこもり生活が1年以上続く入居児、親からの激しい虐待により愛着障害と思われる行動でホームでの対応が困難をきたし、現在は精神科病棟に入院中の入居児・・・など各ホームからそれぞれの重いケースが発表され、聞き入る参加者の表情も一様に真剣なものへと変わっていきました。どこも皆、当然日々真剣に関わりを持ち、対応を模索しながら希望の光が見える、何か妙案はないものか、と苦心している様子が見えてくる思いがしました。当ホームでも、子ども家庭センターから、精神障害がある事を前提での入居打診があり、協議を重ねた上で密な連携を条件に受け入れたケースもありました。入居後はやはり、様々な問題行動があり、職場でのトラブルも多々ありましたが、職場訪問を重ね、ホームと職場の信頼関係を作り、双方から支える体制を築いて何とか生活出来ていたケースを思い返しました。

様々な背景を持った子どもたちと日々過ごす中で、時には職員が疲労困憊することもあります。けれども、職員も子どもも、少し視野を広げホーム内だけでなく、地域や職場の人たちとの関わりを持ったり、また処遇や対応で悩んだ時、例えば弁護士や心理士など、各方面の専門家の意見を気軽に聞けたり、頼れる関係作りを行うのもひとつか、と今回のグループ討論で思いました。何より、悩んでいるのは自分だけではない、と思えることが女性スタッフ研修会に参加して毎回、一番の収穫です。と同時に、回を重ねる毎に気軽に相談し合えるような横のつながりを持てたら、との欲も出て来ました。来年参加の折には、気軽にお声かけ頂けたら幸いです。

最後に、今回会場設定始め、楽しい懇親会もご準備くださった「かんらん舎」の大谷さん、そして「福岡学園」の河尻先生、関係者の皆様、本当に色々ありがとうございました。



好評をいただいております。「ホーム長紹介」です。  
今回は宮崎県の「ウイング・オブ・ハート」の串間ホーム長と仙台市の「せんだんの家」の赤坂ホーム長をご紹介します！

### 「ウイング・オブ・ハート」（宮崎県） ホーム長 串間 範一



#### ホーム長 紹介

「ワン・モア・トライ すてき自分さがし」

ウイング・オブ・ハートのテーマです。

当ホームは、宮崎県内の児童養護施設職員の有志により約5年をかけて立ち上がり、2010年9月に立ち上がりました。このテーマは、立ち上げを心待ちにしていた児童養護施設入所中の女子高校生が考えてくれたものです。このテーマをモットーにスタッフが子どもたちのアクションを支えていくという思いからホームの名前は決まりました。

かれこれ5年が過ぎて、退居していった子どもたちがホームに顔を出すたびに、この仕事の喜びを寮母やスタッフと共有しています。ホームにたどり着いた子どもたちが寮母と会話している姿に「家庭的養護とは」を考えさせられます。

「地域で暮らす」ということも大事にしています。そのためには、地元の様々な活動にホーム長をはじめ、スタッフ自身関わっていくことが大切だと考えています。私はホーム長として長年やってきた地域消防団活動を通して、人を知り、人に助けられ、人に感謝することを肌で感じてきました。子どもたちにもそんな姿を見て地域の中で暮らすという感覚を身につけて欲しいと願っています。

### 「せんだんの家」（仙台市） ホーム長 赤坂 尚子



せんだんの家は開所して17年目になりました。

私は3.11東日本震災後の5月から法人の異動でホーム長になり、今年で5年目になります。震災時には協議会のみなさま始め、各地のホームの方々に義援金や温かい心遣いを頂き、本当に感謝しております。ありがとうございました。

異動になる前の9年間は障害児の支援をしておりましたが自立援助ホームのことは、ほとんど何も知らないままホーム長になりました。子ども達には何が起きても、気持ちの余裕があるところを見せないといけない！と心の中では葛藤しながらも、表面では少し余裕さを見せることが精一杯で、歴代のホーム長のように背中では語れるようになるまではまだまだですが、1番身近な大人として、働く者として背中を見られていることを自覚し、子どもたちと一緒に成長できるように自分自身を振り返る毎日です。どんな状況にあっても誰かが見ていてくれること、それを言葉だけでなく感じ取ってもらえるように職員一人一人が工夫し表現して伝えることを積み重ねていきたいと思っています。

宮城県には2ヶ所、東北には5ヶ所とホーム数が少ないこともありますが、地域や関係機関等に自ら発信していかなければ自立援助ホームの認知度は上がっていかないと実感しております。全国大会や、ホーム長研修会の際には、全国の各ホームの方々が実践や取り組みについて惜しみなく教えて下さること、協議会の方々がパンフレットや運営指針を作成して下さい、自立援助ホーム全体で社会的養護を必要とする子どもたちに、より安定した質の高い支援をしていこうとする姿勢にいつも励まされ、力を頂いております。

今年度から北関東地区と東北地区合同で連絡協議会を開催して頂きました。再来年の全国大会は東北地区に決定しています。支援を必要としている子どもたちが一人でも多く繋がるように力をつけていきたいと思っています。



10月1日～2日、第22回 自立援助ホーム協議会全国大会が滋賀県で開催されます。そこで、今回の開催にあたっての意気込みと、びわ湖と彦根城だけではない滋賀県の魅力について、ご紹介いただきました

第22回  
全国自立援助  
ホーム協議会  
全国大会  
開催にあたり

## 滋賀大会について

BiTs-Unit 廣田 敬史

いつも皆様方にはたいへんお世話になり、ありがとうございます。当ホームの母体法人である、びわこ青少年をサポートする会は、2005年に設立認証を受け、今年でちょうど10年の節目となりました。その記念すべき年に自立援助ホーム協議会全国大会を滋賀県で開催させていただくこととなり、とても光栄に思います。この10年、今思い返すと、なんと多くのことがあったことでしょう。泣いたり笑ったり、落ち込んだり、飛び上がった！そのすべての時、私たちの周りには仲間がいて、先輩方がいて、繋がっていただいている関係団体、機関がありました。

子どもを取り巻く社会状況は日々刻々変化しています。それに合わせ、社会的養護の枠組みや編成も、大きく変わっていきようとしています。そういう状況の今こそ、ないものを見つけ、あるべきものを作り出して、自ら流れをつくっていくことこそが自立援助ホームが自立援助ホームであることの意味であると思います。

滋賀大会では、今、子どもたちと真剣に向かい合っている私たちの一人一人が悩んでいること、行き詰っていること、答えを求めていることなどをピックアップしながら、真正面から皆で語り合っていける時間としたいと思います。限られた時間ではありますが、コッテリと濃いお時間になることを心より願っております。

さて、滋賀大会ということで、滋賀県の見どころを、とのリクエストをいただきました。大会の会場が草津市ですので、そこからちょっと足を伸ばせば行ける所を幾つかご紹介したいと思います。

まずは「びわ湖シンガクルーズ」JR石山駅にて京阪電車に乗り換え、浜大津駅下車。浜大津港から1日何回か琵琶湖を周遊している大型の外輪船です。ナイトクルーズもあり、外人さん（死語？）のライブ演奏を聴きながらびわ湖の景色とお食事を楽しむという感じです。

浜大津の一駅先の三井寺駅を降りると、びわ湖から京都につながる琵琶湖疏水があります。昔使われていた小さな運河ですね。その疎水沿いに山の方に歩くと三井寺があります。順路に従い、参道を登っていくと、ゆく年くる年で必ず中継される三井の晩鐘があります。国宝の建物や弁慶の引き摺り鐘などいろいろ面白いです。時期がちょっとずれて残念ですが、春は桜、秋は紅葉の名所でもあります。阪急電車をさらに乗り続け、終点の坂本まで行くと、比叡山方面へと続くしだれ桜の上り坂があります。登っていくと、日本一長いケーブルカーの駅があり、それに乗ると比叡山山頂、延暦寺に行くことができます。根本中堂をはじめとする国宝の建物や仏像、そして山頂から臨むびわ湖の景色が圧巻です。

以上は全部草津から西方向。草津から東方向の方は、是非彦根城に行ってください。小ぶりですが、建物当時よりそのまま現存する数少ないお城（国宝）の一つ。天守閣に続く石段を登る時には、是非自分がお城を攻めている（上から狙われている）気持ちになって登ってみてください。袋の中のネズミ感を味わえます。お城の中に入ったら、上を見上げて、天井の梁、大黒柱をよく観察してください。まさに匠の技！です。そして、お城の前庭では是非、ひこニャンのゆるーい、ゆるーいパフォーマンスを楽しんでください。

あと、最後におまけ。京阪電車の膳所本町駅を降りてすぐにある「美富士食堂」！！ネタが欲しい人、胃袋に自信がある人絶対に行くべき。探偵ナイトスクープなど数々のテレビ番組でも紹介されている名物食堂です。いや、もとい。「怪物」食堂です。

全国自立援助  
ホーム協議会  
よりお知らせ

<第22回 全国大会のお知らせ>

\*開催日：平成27年10月1日（木）～2日（金）

\*場 所：滋賀県 草津市

\*当日のレジュメ、会場までのアクセスは協議会ホームページからも閲覧できます。協議会HPの「各種お知らせ」をご覧ください。



協議会からの  
新情報 満載!

ホームページアドレス

<http://zenjienkyou.jp/>



全国自立援助ホーム協議会ホームページ

「ホーム一覧」から各ホームのHPに移動できるようリンクすることで、周知効果を高めることができます。

リンクご希望のホームは 広報委員HP担当 吾が家 大橋までご連絡下さい。



全国自立援助ホーム協議会 パンフレット 好評発売中!

広報委員会 パンフレット作成担当：経堂憩いの家 松木 良介

現在、およそ20ホーム、2000部 売れています。

今後は、自立援助ホームの活動の啓蒙や新しい時代を築くための人材確保にも利用していただきたいと考えています。福祉系の大学の授業で使用した、という話も聞いています。

ご近隣の福祉系の大学、専門学校への配布もご検討いただけると幸いです。

購入を希望される方は、自立援助ホーム協議会事務局までご連絡下さい。

【編集後記】 広報委員長 夢舞台 新井 秀親

2020年東京オリンピック・パラリンピックの話題が、世の中を騒がせています。新国立競技場の整備計画が白紙撤回され、また大会の象徴たるエンブレムも同じくして、そのデザインが白紙撤回されました。最大の理由は、国民の理解が得られないと大会組織委員会から声明が発表されました。恒例の全国大会、社会的養護の重要な一角を担う自立援助ホームの事業が、より多くの国民の理解が得られるような大会でありますように期待しています。